

ひろびろび 珍しい話題なごお寄せください。

人・ふれあい・大自然

九十九里ツーデーマーチ'90

広報よこしば ⑧



横芝のチェックポイントでは長い列が

天候に恵まれた5月26・27日の両日、八日市場市吉崎海岸から一宮海岸までの60キロメートルを2日間で歩く「九十九里ツーデーマーチ'90」が行われました。全国から集まった約1,500名のウォーカーは、世代をこえた人たちとのふれあいを深めながら、天下に名高い九十九里の雄大な砂浜を歩く



軽快な足どりで、心もはずむ

この大会は、今後も九十九里浜をコースとして毎年実施されることですが、歩くことの少ない車社会の今日、健康づくりのためにも来年は、ぜひ、あなたも参加してみませんか。

途中で、歓迎の旗なびく横芝町にも立ち寄りしましたが、年齢を感じさせない足どりで楽しそうに歩を進めていました。

退職者から現役のサラリーマン、そして家庭の主婦まで、立場や年齢はまちまちですが、会員みんなが出易い日として日曜日を活動日にあてているため、いつも出席率は上々です。

水墨画といえば、宿屋などの掛軸に見受けられる山水画を思い浮かべますが、墨一色の濃淡によって描くところに特色があります。

クラブ長の土屋長八さん(姥山)によれば、その絵に個性とか創造性、心境といったものを、いかに表現できるかが一番重要なことであって、画一的な手法、技術には余りこだわらないとのこと。

県展等には、かなりの大作を出品しますが、ふだんは果物や花など身近な題材を半紙大の和紙に描くことにより、コツコツと勉強を重ねています。

石井成児先生(県水墨会会長)も、描こうとする物に対する情感をより適切に表現できるようにと、個々の指導に

公民館クラブ紹介 ③

あたってくださいますので、皆さんは実際のびのびと筆を進めてい

身近な題材で腕磨く

水墨画クラブ



この日の題材はタケノコとアザミ

ます。

一般の絵画とちがって、下書きなしの一本勝負ですし、なぞりもききませんので、満足がいかなければ、何枚でも書き直しをして完成させます。「天候の良い日は、写生に出かけたりで心がなごみます。

また、色紙に書いたり、お友達への便りのはしに季節の花を書きそえたり、いろいろと活用できますので、生活にうるおいを感じます。」(熱田美代子さん)等の声も聞かれます。

「墨のにじみが微妙に変化する時の感動は格別の味」と、土屋さんは結んでくれました。熱意さえあれば誰にでも取り組めるという水墨画。興味をお持ちの方は、仲間入りしてください。